



SANJO ROTARY CLUB

三条ロータリークラブ

2015.10.21・28  
(No.2842・2843)  
**週報 No.15・16**

【合併号】

夢(Gift)を明日へつなげよう

第2560地区ガバナー／山本和則  
会 長／五十嵐晋三  
会長エレクト／川瀬康裕(クラブ奉仕A)  
副 会 長／小出子恵出(クラブ奉仕B)  
幹 事／浅野金治  
S A A／吉井直樹  
会 計／野崎喜一郎

例会日／毎週水曜日12:30～  
例会場及び事務局／  
三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店内  
例会場／TEL 34-3311  
事務局／TEL 35-3477 FAX 32-7095

E-mail : sanjo-rc@cpost.plala.or.jp  
http://www.soho-net.ne.jp/~rotary/  
(～はshiftを押しながら“へ”のキーを  
押してください)

- 本日の出席会員数:54名中41名
- 先々週出席率:90.38%

【先週のメークアップ】

- [10.15] 三条東RCへ
  - ・菊池 渉さん、衛藤泰男さん、
  - ・野地貞儀さん、阿部吉弘さん、
  - ・明田川賢一さん、丸山行彦さん、
  - ・中村和彦さん、加藤紋次郎さん  
(8名)
- [10.15] 三条ローターアクトへ
  - ・米山智哉さん
- [10.17] 市内4RC合同公開例会へ
  - ・明田川賢一さん、浅野金治さん、
  - ・五十嵐昭一さん、五十嵐晋三さん、
  - ・荻根澤隆雄さん、加藤紋次郎さん、
  - ・金子俊郎さん、木村文夫さん、
  - ・熊倉昌平さん、小林敬典さん、
  - ・斎藤弘文さん、佐野勝榮さん、
  - ・杉山幸英さん、関川 博さん、
  - ・高橋 司さん、外山雅也さん、
  - ・中村信一さん、西山徳芳さん、
  - ・松永一義さん、丸山行彦さん、
  - ・渡辺勝利さん  
(21名)
- [10.19] 三条南RCへ
  - ・菊池 渉さん、石橋育於さん、
  - ・中村和彦さん、斎藤弘文さん、
  - ・小出子恵出さん、阿部吉弘さん、
  - ・伊藤寛一さん、丸山行彦さん、
  - ・若槻八十彦さん、山田富義さん、
  - ・加藤紋次郎さん  
(11名)
- [10.20] 三条北RCへ
  - ・斎藤弘文さん、阿部吉弘さん、
  - ・山田富義さん、中村和彦さん、
  - ・加藤紋次郎さん、木村文夫さん、
  - ・伊藤寛一さん  
(7名)
- [10.22] 加茂RCへ
  - ・山田富義さん
- [10.24～25] ライラ研修(新津)へ
  - ・米山智哉さん
- [10.25] 防災キャンプへ
  - ・高橋 司さん、丸山行彦さん、
  - ・金子俊郎さん、杉山幸英さん、
  - ・渡辺良一さん、関川 博さん、
  - ・松永一義さん  
(7名)



## 会長挨拶

### 五十嵐晋三 会長



皆さんこんにちは、会長挨拶を致します。

報告事項になりますが、地区で募集しております奨学金に、三条クラブへお一人の方から申し込みがあり、本日11時から面接を致しました。次年度にまたありますので、川瀬先生、浅野幹事、私の3人

で行いました。本人の意欲、奨学生として相応しい人であると判断を致しましたので、地区へ送りたいと思います。

私が入会した頃、ロータリーバッチを付けてきましたかと、バッチ着用の事がよく言われていました。バッチを付けていない人があったのだと思います。今日はロータリーバッチの話です。

ローターアクトの10周年式典の時の事です。祝賀会が始まり少し時間の経った頃でした。私達同年の者が数人で愉快地飲んでおりました。そこへ15代会長をされた大先輩の加藤峰吉さんが来られました。加藤紋次郎さんのお父さんでいらっしゃいます。私は入会前より加藤さんと面識がありました。入会した頃よく言葉をかけていただき、大変ありがたい方でした。

加藤さんが、ローターアクトは加藤さんが会長をされた時に出来たという事を話されました。その後でロータリーバッチの話がされました。



鍛造業界のチャンピオンでいられます北陸工業の創業者の加藤さんがハンマー購入の為にドイツに行かれたそうです。メーカー側との話は、最初なかなかうまくいかなかったそうです。メーカー側の人が加藤さんの付けていたロータリーバッチを見つけたそうです。加藤さんに、君はロータリアンかと尋ねたそうです。そうだロータリアンだと答えたそうです。先方の態度は一変したそうです。是非うちのハンマーを使ってもらいたい、条件もあなたに任せると言ったそうです。バッチのおかげで商売はうまくいったと話をされました。

加藤さんは、ロータリーは世の中に大変信用のあるものですよと我々若い者に大変貴重な話をされました。どうぞ皆さん、ロータリーを大切にしましょう。

ロータリーバッチの話を致しました。  
挨拶を終わります。

## 幹事報告

浅野金治 幹事

◎山本ガバナー事務所より

「第2560地区ガバナーノミニ決定のお知らせ」  
2017-18年度ガバナー 新保清久氏（新潟万代RC）

◎山本ガバナー事務所より

「2017-19年度 第1ゾーンRI理事選出のお知らせ」  
2017-19年度RI理事候補者

石黒慶一氏（鶴岡西RC）

◎高田RCより

「創立60周年記念式典ご臨席の御礼」

◎新潟西RCより

「創立40周年記念式典 記念誌送付のご案内」

◎三条市共同募金委員会より

「赤い羽根共同募金 街頭募金の御礼」

街頭募金実施日：10月4日（日）

募金合計額：56,841円

◎三条市青少年育成市民会議より

「第11回 私のメッセージ三条市小学生大会のご案内」

日 時 11月14日（土） 9：00～12：00

会 場 三条市中央公民館

## ニコニコBOX

五十嵐晋三会長

加賀美さん、卓話ご苦労様です。

加賀美匡さん

本日は卓話の機会をいただきありがとうございます。高い席から大変恐縮ではありますが、よろしく願います。

加藤紋次郎さん

会長挨拶で親父の話、ありがとうございました。

吉井直樹さん

先週は京都、明日から宮崎、来週は佐渡とお楽しみ続きです。仕事はいつやりましょうか？

本日加賀美会員の卓話を楽しみにしています。

関川 博さん

4クラブ合同例会ご苦労様でした。蓮池氏の話に改めて北朝鮮の拉致事件を認識いたしました。

加賀美さん、卓話よろしく願います。

野崎喜一郎さん

すばらしい秋晴れが続いています。それなのにゴルフでは2回雨になってしまいました。

樺山 仁さん

いよいよ秋となって朝夕の気温が下がってきました。スポーツの秋になりガンバリましょう。

本日の加賀美会員の卓話に期待して。

衛藤泰男さん

横浜の孫がウォーキングシューズを送ってきました。

加賀美さんの卓話楽しみです。

中條克俊さん

耳の不自由な甥っ子の大学入学が決まりました。

熊倉昌平さん

加賀美匡さんの卓話ありがとうございます。益々のご活躍を祈ります。

太田寿三さん

加賀美さん、卓話がんばって下さい。

宮本信秋さん

加賀美さん、卓話すごく楽しみにしています（プレッシャーかけてすみません）

石橋育於さん、小林吾郎さん

よいことがありました。スマイルボックスに協力いたします。

小出子恵出さん、川瀬康裕さん、金子俊郎さん、

丸山行彦さん、五十嵐昭一さん、高橋 司さん、

杉山幸英さん、小越憲泰さん、渡辺勝利さん、

渡辺良一さん、山田富義さん、五十嵐博宣さん、

柳取崇之さん、中林順一さん、松永一義さん、

野地貞儀さん、西山徳芳さん、明田川賢一さん、



外山雅也さん、 歸山 肇さん、 浅野金治さん、  
中村信一さん

加賀美会員、本日は卓話ありがとうございます。お話を  
楽しみにしております。

10月21日分 ￥ 36,000  
今年度累計 ￥ 426,000

## 「卓話」 東京海上日動 To Be a Good Company 「良い会社」を目指して 加賀美 匡 会員



東京海上日動の加賀美です。  
7月からシマト工業の齋藤さん、保険のリネスの渡辺さんのご紹介により歴史ある三条RCに入会させていただきました。新入会員の恒例とはいえ、高い席からの卓話に大変恐縮しております。せっかくいただいた機会ですので、私の自己紹介と東京海上日動の自社紹介、とかくわかりにくいと言われる保険の話などについて話をさせていただきます。

### 1. 自己紹介

- ・珍しい名前ですね？……山梨に多い名前です。父の出身が山梨です。
- ・3桁はあるの？……体重は3桁はありません。
- ・東京都立川市出身、現在の自宅は浦和、単身赴任中です。
- ・学生時代「なべの会」野草を食べる会 下田村でもキャンプ（30年前）
- ・入社後の勤務地は、名古屋、東京、釧路、東京、新潟 本店の広報マンも経験
- ・妻、息子2人 大学3年、高校3年  
アイスホッケー部
- ・東京海上は、三条の地に、1946年に事務所を設置、1970年に現在の三条支社を開設しましたので、おかげさまで、三条に70年もの間お世話になっています。

### 2. 自社紹介 東京海上日動について

#### (1) 東京海上の歴史

- 日本で最初の保険会社（創業136年）日本産業

#### 近代化のVIPが設立にかかわる

東京海上は、1879年（明治12年）日本初の保険会社として、500もの企業の育成にかかわり「日本資本主義の父」と称される渋沢栄一が發起人となり、伊達、蜂須賀、毛利といった華族（旧大名）グループの出資により設立されました。旧大名の十分な出資のもと安定した経営を行っていたことから「殿様商売」と皮肉も込めて言われたそうです。

当初は、出資金により東京－青森間を結ぶ鉄道の会社を作ろうと考えていたようですが、産業立国となるために貿易を発展させようとの発想から海上保険の会社を作ることになった経緯があります。東京海上の会社名の由来は、海上保険分野からスタートした証でもあります。日本に「保険」という発想を持ち込んだのは福沢諭吉で、江戸末期の著書である「西洋旅案内」の中で欧州の近代的な保険制度が紹介されていたことがスタートであると言われています。

#### ○「犬猿の仲」渋沢栄一と岩崎彌太郎が手を結ぶ

さらに東京海上保険会社設立にあたって、最大の海運会社であった三菱財閥とのかかわりは不可欠であったことから、まったく発想が違い当時「犬猿の仲」といわれていた渋沢栄一と岩崎彌太郎が手を組んだことでも、日本産業の近代化に果たした役割が大きいといわれています。

#### ○時代の変化とともに、取り扱う保険も変化する

第2次大戦後、経済発展、高度成長とともに、貿易を中心とした海上保険から、住宅、ビルの建設ラッシュによる火災保険、モータリゼーション：自動車の飛躍的な普及による自動車保険、高度な事業活動を支える賠償責任保険など、時代の変化とともに、扱う保険の種類も変化してきた歴史があります。まさに、物事が動く、必ずリスクが発生して保険の必要性が高まることを証明しております。

#### <こんな保険も実在します>

ホールインワン、人工衛星、ロケット、タンカー、美術品、競走馬、イベント、外国アーティストコンサート、オリンピック、モンスターペアレンツ対策、…etc.

#### <世界でも類を見ない保険>

「超保険」（ちょうほけん）当社独自の保険です。約20年前から、生保・損保兼営の時代になり、各社、それぞれ子会社方式で生損保兼営をスタートしたのですが、会社が別なこともあり、なかなか



かシナジーを發揮できずにいます。そんな中、当社は「超保険」という生損保一体型の商品を開発しました。開発コンセプトは、生保、損保、すべての保険を一体で加入できる。保険に加入する際の「モレやダブリ」をなくして合理的な保険料も実現できるというものです。現在、200万件の保有件数となっており、当社の主力商品となっています。多額のシステム投資が必要であり簡単にマネができないようで、現在、世界でも類を見ない保険となっています。少し宣伝です。

余談ですが、オリンピックの保険と言えば、「東京オリンピック2020」の1業種1社のゴールドスポンサーに当社になることができました。スポンサーになるための出資額といただくであろうオリンピックの保険を比べても商売にはなりません。目先の商売でなく今世紀にあるかないかの国事に参画することで日本国の役に立っていこうと考えています。

## (2) 経営の安定 規模と収益の両立 挑戦の歴史

### ○イザという時に備えた経営の安定

保険会社にあってはならないことは、事故が発生した際の保険金を支払う前に破たんしてしまうことです。創業当初の明治の時代、わが社は、外国企業、海外保険マーケットの求めに応じて、事故の実態がわからず安過ぎる料率で保険引受を行ったため、経営破たん寸前まで陥った経験があります。海外取引で「カモ」にされた訳です。その経験を活かして、適正な水準での保険引受を早い段階から実施して現在に至っています。

また、関東大震災の経験を活かして、大災害が起こってもゆるぎなく対応できる。そのための準備を怠らない経営を、戦前から続けてきました。

### ○業界再編 規模から収益性（合併の歴史 東京海上ホールディングスの設立）

経営の安定を求めて、この20年来、損害保険業界も合併、再編を繰り返してきています。もと6社の会社がかっついて長い名前になった会社もあります。

東京海上も日動火災との合併、日新火災の経営統合などを経て、東京海上ホールディングス（HD）を設立しました。東京海上が圧倒的に規模が大きかった時代は今は遠く、規模では3メガ体制と言われるように、3グループが拮抗している状況になりました。今や、勝負は収益性と言われて

## (3) 日本で一番「人」が育つ会社 を目指して

### ○就職人気の秘密は？

時期になるとマスコミを賑やかす「就職人気企業ランキング」なるものがあります。自分の会社の話をする、必ず聞かれるのは、人気の秘密は何か？ということです。

保険会社は、目に見える製品がある訳でないため、人材が集まることは大変ありがたいことです。人気の秘密は、よい待遇で優秀な社員を集めているからだという人がいますが、そんな簡単ではありません。いまは、「堅い」だけの「堅実」でなく、健全で健康な「健実」で魅力的な経営を行い、「人を育てる会社」でないといふ若者は来ません。そこで、社長以下、「日本で一番「人」が育つ会社」を目指して、本気で取り組んでいます。一例は、女性の活躍推進です。

### ○女性活躍推進のキーワードは 3K

損害保険は、長らく男性社会でした。男性は外で戦い、女性は中を守るといった不文律がまかり通っていました。今日、働き手人口が減少する中、ポテンシャルが高い人材を、性別の差だけで活かしていない現状がもったいないと考えます。女性の活躍推進の観点で、この10年間、企業として様々な取り組みを行ってきました。

社内での女性の活躍推進のキーワードは3Kです。「キツイ、キタナイ、キケン」でなく、男女の差なく、みなと同じように、「期待し、鍛え、活躍の機会、場所を与える」ことを、社長以下、社内で徹底しています。

## 3. 今後の保険はどうなる？ 次なる挑戦は？

### (1) 起こりうる環境変化

#### ○少子高齢化

人口の減少のより、今世紀末には日本の人口は5,000万人になると予測されています。少子高齢化による労働力の低下、経済活動の縮小により、従来の保険ビジネスは縮小することになります。

#### ○事故を起こさない自動車

テクノロジーの進化により、リスクの質・量が変化してきています。自動車事故が無くなれば、世の中にとってはよいことですが、自動車保険は必要が無くなり、我々の事業も変化を余儀なくされます。

#### ○自然災害の想定外の猛威

世界各地で異常気象（集中豪雨、台風・干ばつ）の大型化が発生しており、自然環境の変化が想定を超えたものになってきています。ちなみに、



今年の主な台風被害（西日本上陸、関東東北水害）は、過去10年間で最大級であり、東日本大震災の1/4の規模となっています。

このような環境変化を見越して、今できることに挑戦しています。一例を話します。

## （2）将来に向けての「挑戦」

### ○海外進出M&A HCC 9,400億円で買収

「国内保険最大級の買収」とマスコミをにぎわせましたが、今後の当社の大きな挑戦である海外進出、M&Aについては、2つの目的で取り組んでいます。

#### ①海外での高い収益により国内の収益に還元

この数年来、自動車部品の高騰による修理費の増加、自然災害の多発により、自動車保険、火災保険などのお支払する保険金が想定を超える状況が続いて、国内の保険事業だけでは赤字の状態が続いていました。掛け金である保険料を値上げしなくてはならない場面になりましたが、競争の厳しい中、大幅な値上げはできない。そこで、海外での保険ビジネスに打って出て、その儲けで国内の赤字を賄う収益構造に取り組んできました。明治の時代に「カモ」にされた轍は踏まないように、徹底したリスク管理のもと収益への挑戦を行ってきています。

#### ②世界有数の災害国日本を守るために

収益のこと以上に大事なことは、世界の自然災害の2割が集中していると言われる日本だけで事業を行ってはいけません。日本のお客様を守れないということです。再保険という保険リスクの分散はもちろんのこと、事業・資本を国外に置くことによるリスクの分散も必要であり、「健実」で安定的な事業を営むグループを作るためにも海外進出が必要になってきています。

### ○ニューリスクへの挑戦

最近のニューリスクへの対応として特徴的な事例を挙げます。

昨今、サイバーリスクが、企業、団体の活動を脅かしています。20年前は、サイバーリスクなどといった言葉すら一般的でなかったと思います。当社では、サイバーリスクに備える保険として「サイバーリスク保険」を開発しましたが、今までの保険とは大きく違っています。サイバー攻撃に対しては、早期に原因を発見して適切な処置をすることが必須ですが、原因がなかなかわからなかったり、攻撃にあったことによる情報漏えいを隠ぺいすることがあったりと、時間との戦いの中でド

ンドン被害が広がっていく現状があります。そんな中で、ことが収まった後に、損失を補うために保険金をお支払する従来の方法では、企業のリスクヘッジになりません。

そこで、当社と提携している情報、ネット運営に関して世界的に実績のある業者が前面に出て、サイバー攻撃を受けた際の早期の原因究明、適切な処置を実施する「対策を講じる」保険を開発しました。「お金を払う」だけのリスクヘッジから、大きく変わってきています。リスクの質が複雑化してきている中で、今後、この傾向は益々進むものと思います。

最後に、

「事件は、会議室で起きているのではない、現場で起きている」（踊る大捜査線）

時代の変化のスピードが速いなか、会社の中の机の上、会議室の中でだけ物事を考えているのは、リスクの本質はわからないと考えます。実際の事業を行う皆様、生活を営む国民の皆様、保険を利用される方々の中にこそ、今後の進むべき道があると考えています。今後とも、日本の成長のために前に向かって挑戦していく方々と、ともに挑戦しながら、同時に、そのためのヒントをいただけるよう、皆様の声に真摯に耳を傾けていきたいと考えています。今後とも、ご指導の程、よろしくお願ひいたします。



# 三条市内4ロータリークラブ合同公開例会



三条南ロータリークラブ  
星野 健司 会長



「開会の挨拶」  
市民の皆様、ロータリアンの皆さん、こんにちは。  
三条南RC本年度会長の星野です。本日は週末の大変お忙しい中、三条市内4ロータリークラブ合同公開例会にお集まりいただき誠にありがとうございます。最後までご清聴よろしくお願ひ申し上げます。

また、蓮池 薫様におかれましては、大変お忙しい中、本日の公開例会の講師をお引き受けいただき感謝申し上げます。

ここで少し時間を頂戴し、私共ロータリークラブのご紹介をさせていただきます。ロータリークラブは職業倫理を重んじる職業人の集まりで幅広い奉仕活動を実践している団体です。

ロータリークラブは今から110年前にアメリカのシカゴで誕生し、現在200以上の国と地域に広がり、クラブ数は 35,109 会員総数1,235,536人（2015年5月31日RI公式発表）が在籍しています。日本全体のクラブ数は2,269、会員数87,727人（2015年7月末現在）となっています。三条市内では三条クラブ、三条北クラブ、三条東クラブ、三条南クラブと4つのロータリークラブがあり204人の会員が日々奉仕活動に努めております。

さて、本日の講演会には、中央大学3年在学中の1978年に、不幸にも北朝鮮の拉致に遭遇し24年間大変な苦勞をされ2002年によりやく帰国された蓮池 薫様を講師にお迎え致しました。拉致問題は毎日のようにマスコミが報道いたしますが、一向に解決に至らず、特に新潟県は拉致被害に遭われた方が多く、県民の皆様も心を痛める事件であります。講師の蓮

池様には拉致の実態を含め、現在までの拉致問題についてご教示お願ひ申し上げます

最後となりますが、拉致被害に遭われている方々が一日も早く帰国できますことをご祈念申し上げます、開会の挨拶とさせていただきます。



～ 蓮池 薫氏 プロフィール ～

1957年 新潟県柏崎市生まれ。  
中央大学法学部3年在学中に拉致され、24年間、北朝鮮での生活を余儀なくされる。  
帰国後、1年間の市役所勤務を経て、新潟産業大学 嘱託職員・非常勤講師として働くかたわら、中央大学に復学。  
2005年に初の訳書「孤将」を刊行。  
2008年3月 復学していた中央大学 卒業  
2013年3月 新潟大学大学院博士前期課程 修了  
2013年4月～現在 新潟産業大学経済学部 准教授

訳書：「ハル 哲学する犬」「私たちの幸せな時間」「トガニ」など20数冊。  
著書：共著1冊を含め5冊。  
うち2009年6月刊行の「半島へ、ふたたび」（新潮社）は新潮ドキュメント賞を受賞。  
2012年10月に「拉致と決断」（新潮社）を刊行。





## 「拉致と決断」 -あの日の決断から始まった-

新潟産業大学 経済学部

准教授 蓮池 薫 様



「拉致」によって私が奪われたものは命を除いた残り全てでした。その中でも「夢と絆」が一番重いものです。拉致されてすぐは現実が信じられず、何かの間違いではないかとの思いが数か月続き

ました。間違いなら早く帰してくれと必死で抗議したり、手を合わせて拜んだりしました。ところが2~3か月経って到底日本に帰す気はないと思った瞬間、つまりあきらめかけた瞬間、私はとてつもない絶望感に襲われました。人間生まれながらにして、大きい小さいは別にしてみんなが自分の可能性を持っています。その可能性を活かして生きることが生きがいであり夢だと思います。そのために努力できる選択肢、選択の自由を持つということがその人にとってもっとも大事な権利の一つです。その夢、選択の自由をすべて奪われた絶望感は、言葉に表すことすらできませんでした。また、家族と引き離された孤独感、自分の生存を家族に知らせたくても知らせられないつらさも苦しいものでした。

1978年7月31日、私は今の家内と新潟県柏崎市の中央海岸でデートをしていましたが、あいにくにもそこに北朝鮮の工作グループが一般市民を拉致するために浸透して網を張っていました。砂浜に座っているとタバコの火を貸してくれと言ってきました。火をつけた瞬間、後ろから忍びよってきた別の人間たちに襲われました。私は顔面を殴られ、彼女は猿ぐつわをされ、近くのくぼみに引きずり込まれ、強い力で押さえつけられました。その後沖合から来たボートに、袋にすっぽり入れられた状態で荷物のごとく載せられました。その後さらに母船に載せられた二人は、別々の船室に分けられ、一路、北朝鮮の清津（チョンジン）に向かいました。私は清津市のある宿舎に連れて行かれ、10日間、平壤に行く準備をさせられました。その間一番怖かったのは朝です。寝ているときは忘れていても朝が来ると拉致されたという現実引きずり戻されるのです。不安なのは何も知らされないことでした。彼女はどうかと聞いても、平壤に行けばわかると繰り返すばかりでした。平壤に着いて私が入れたのは、農村地帯にある招待所でした。招待所は特殊機関が作業員を養成する秘密アジトのようなところでした。そこで私は彼女は日本に帰したと聞かされました。そこで3か月過ごすのですが、その間、逃げないよう

にといろいろ脅されもしました。しだいに抵抗しても無駄だという気持ちになるなか、自分の置かれた現状や先行きのことを知るためにも朝鮮語を身に付けようと思いました。それからというものテレビなどを教材に1年間、必死で朝鮮語を勉強しました。

拉致され1年9か月経った頃、大きな変化が起きました。結婚しないかと言われたのです。相手はあなたの彼女だと。本当に目の前が明るくなりました。私たちを結婚させたのは逃げないように監視するのに限界があり、それよりは結婚させて落ち着かせたほうが、無謀な行動はしないだろうと考えからだったようです。その背景には拉致されたレバノン女性が逃亡するという事件があったということはずっと後で知ったことでした。

子供が生まれたときに、果たして日本に帰れる前提で育てるか、それともこの国で一生生活することを前提に育てるかで悩みましたが、いくら考えても答えは後者でした。それから日本に帰りたいという話は一切口にせずに子育てに専念しました。その頃、子育てにはいろいろな困難がありました。一つは我々が秘密に属する人間なので、秘密保持のため、子どもを家から150キロ離れた全寮制の学校に送らざるを得なかったこと。二つ目は日本人であることを明らかにできなかったことです。反日教育が行われている北朝鮮で、日本人として生きていくのは難しく、したがって在日朝鮮人という偽装経歴で暮らしました。

また、子どもの将来に悪影響がないように、親以外の家族親戚はすべて死亡したと子供に嘘をつきました。我々にとって子供を育てることは「生きがい」となり、その「絆」にすがって生きていくことが生活の全部となり、このまま北朝鮮での人生が過ぎていくものと思っていました。

そんな1998年に労働新聞で日本が拉致問題で騒いでいると報じました。その年は拉致され20年の集会在日本で行われていました。しかし日本で活動してくれるのはうれしいが、逆に我々が奥へ奥へ追いやられるのではないかと危惧しました。事実、山奥の家に追いやられ、ここで死ぬまで暮らせと言われました。ところが2002年になって日本との関係改善に迫られた北朝鮮は、我々の存在を公表することにしました。公表されれば自分たちが生きることが親に伝わるという希望が生まれました。2002年9月の小泉総理の訪朝を経て、今度は突然日本に行つて来いと言われました。ただし、子供は連れて行かず、逆に秘密を守るために子供には国内旅行に行く嘘をつきました。日本では子供は返してもらおうか



らこのまま日本に残れという兄と大ゲンカになりました。母は24年ぶりに会って兄弟げんかするくらいなら、ここから飛び降りて自殺すると言いました。24年ぶりに会った家族に言い争いをさせる、そんなところにも拉致事件の惨さがあるのです。しかし、その後、故郷の懐に包まれた私は、日本にとどまって子供を待つ決心をしました。まだ日本から何の見返りももらっていない北朝鮮だけに、多少時間はかかっても子供はきっと帰すだろうと思ったからです。子供にとって日本と北朝鮮のどちらがいいかと考えたときに、夢を花咲かせることができるのは、日本しかないとも思いました。このまま日本に残るという決心を話すと、家内は最初強く反発しましたが、決心に至った経緯を話すと納得してくれました。子どもたちが帰るまでは、市役所の仕事に没頭しました。励ましの手紙もあれば誹謗中傷も届く中、家族に支えられました。母親は「私は24年間も会えなかった。お前は子供に1年やそこら会えないだけでよくよするな」と落ち込む私を鼓舞しました。その後子供たちが日本に来たことで、北朝鮮でできた絆と日本での絆が初めて一つになりました。私は拉致問題の解決で一番大事なことは絆と夢を取り戻すことだと思います。現在、残された人たちの思いを考えると、心配です。私たちは帰国する10日前までは日本に帰れるとは夢にも思わず暮らしていました。しかし、現在北に残されている被害者は我々の帰国をほぼリアルタイムで聞いていたはずで、自分たちもこのように帰れると期待で胸を躍らせていたはずです。しかし、何もないなか、11年という歳月が経ちました。期待はすでに絶望に変わっているかもしれません。家族の絆は永遠ではなく、命が続かなければ繋がりません。また、年を取れば日本に帰ってきて夢を追うことはできません。一日も早い解決を望んでやみません。本当に私は失ってみて初めて絆と夢のありがたさや貴重さを感じました。このような私の体験談が、少しでも皆様のお仕事や活動の参考になればと祈念しながら、私の講演を終わらせていただきます。ありがとうございました。



三条北ロータリークラブ

外山 晴一 会長

### 「閉会の挨拶」

只今は、蓮池先生より大変興味深いご講演をいただきありがとうございました。先生の拉致問題早期解決の熱意が伝わり、

あっという間の1時間半でした。

拉致問題の早期解決が望まれているにもかかわらず、問題解決の糸口が見えません。今日の講演で先生がおっしゃったように北朝鮮に対しては強硬姿勢一辺倒だけでなく、外交交渉ですから、相手の欲しがっている経済協力援助も一方で提示しながら進め、一刻も早く解決するべきと思います。

日本は災害や飢饉などが外国に起ると援助しております。私たちロータリークラブも災害時はもとより、普段でもポリオプラスといってポリオはじめとする伝染病の撲滅や識字率向上のために遠くアフリカにまで援助をしています。しかしお隣の北朝鮮に飢餓や災害が起きても、全く援助をしておりません。日本全体も同様です。拉致問題が原因で、善隣友好が出来なく全く不幸な状態が続いております。この意味からも拉致問題の早期解決が望まれます。



## 国際ロータリー第2560地区 2015-2016年度 「地区大会」



### クラブ会報委員会 関川 博 会員

11月1日(日曜日) 2015-16年度 地区大会二日目に参加いたしましたので報告をいたします。

山本ガバナーのもと、新潟南RCがホストクラブとなり地区大会が10月31日ホテルオークラ新潟、11月1日朱鷺メッセで開催されました。一日目の報告は会長より行われますので、会員が参加した二日目を報告いたします。角南地区幹事の開会宣言、山本ガバナーの点鐘により幕を開けた大会二日目は、森副知事、福田新潟商工会会頭の祝辞をいただき午前中のメインイベントである藤林RI会長代理へとスムーズにつながりました。(篠田新潟市長は公務中前後を調整し途中参加でご出席いただきました。)

藤林RI会長代理はまず、K.R.Ravindran会長より代理出席をメールで依頼され身の引き締まるおもいで参加していると語られ、その重責は言葉の重さで十分伝わってきました。

「Be a gift to the world」

RI会長のテーマつなげる地区テーマである「夢(gift)を明日につなげよう」は一体感のあるテーマで素晴らしい。そして、印象的なコメントは新会員勧誘のお話でした。現会員の維持があってこそ、新会員の勧誘であり「会員増加ではなく、会員増強」である事、ロータリーとはどうあるべきかをコンパクトに分かりやすく説明をされ、改めて基本に戻る瞬間でした。「ご自身が入会したときの喜びと感動、緊張を忘れる事なく持ち続けたから、今日まで会員なのです。あなたにロータリーを紹介してくれた人、ロータリー情報を教えてくれた人、奉仕する機会を与えてくれた人、あふれる友情で接してくれた人、苦言を呈してくれた人等、様々な恩恵を受けながらあなた自身の努力もあって会員であり続けま

した。今度はあなたが恩返しを兼ねてあなたが受けた恩恵を新しい人に実践する番です。RIでも地区のためでもなく、あなた自身とあなたのクラブのために。」最後の一言に、胸が熱くなりこみ上げるものを感じました。ロータリーの魅力はこの一文説に全て集約されていると思います。素晴らしいスピーチを拝聴できた幸せを実感いたしました。

記念講演は、外交ジャーナリストである手嶋龍一氏により「インテリジェンスの本質とは」を拝聴いたしました。NHKワシントン支局長として9.11を経験され11日間に渡る連続放送を担われるなど、アメリカを中心としたグローバリズムを背景とした国際的平衡感覚の中で得た情報を分析し情報発信する事を旨としてこられた事を分かりやすく講演されました。特に、現在の中国とアメリカの関係やそれに伴う日本の微妙な位置関係など興味深い話からインテリジェンスとは、「あふれる情報を国際感覚を持って入手し、分析し絞り出したひとつとずくである」と最後に結ばれました。話に聞き入りあつというの間一時間半でした。

親睦交流会は古町芸妓による舞が花をそえ、地区ゴルフ大会表彰式など和やかなひと時を過ごしたことをご報告いたします。







次週例会 11月11日 「ライラ研修報告」  
 青少年奉仕委員長 米山智哉 会員

次々週例会 11月18日 「地区大会報告」 五十嵐晋三 会長

